

## 第74回福島大学経営協議会議事要録

1. 日 時 平成28年4月26日（火）13時30分～15時45分
2. 場 所 福島大学事務局棟 第2会議室
3. 出席者
  - 【学外委員】阿部正、伊藤泰夫、斎藤美幸、田原博人、富田孝志、林由美子、深澤秀樹、八島洋一、渡邊博美
  - 【学内委員】中井勝己、中田スウラ、三浦浩喜、小沢喜仁、若井祐次、千葉養伍、久我和巳、阿部高樹、二見亮弘、
  
  - 〔オブザーバー〕 副学長：真田哲也  
監 事：上井喜彦
4. 欠席者
  - 【学外委員】清水潔、早川信夫
  - 【学内委員】千葉悦子、橋本潤子（オブザーバー）
5. 議 事
  - 【審議事項】
    - （1）学長選考会議委員の選出について
    - （2）第2期中期目標期間における教育研究評価について
    - （3）東日本大震災（原発事故含む）および激甚災害において被災された方に対する検定料の免除について
  
  - 【報告事項】
    - （1）第3期国立大学法人福島大学中期目標・中期計画について
    - （2）平成28年度国立大学法人福島大学年度計画について
    - （3）平成28年度入学試験実施結果について
    - （4）その他

議事に先立ち、中井学長から、学外委員の紹介及び、福島大学出席者の紹介があり、各委員より一言ずつ挨拶があった。

### 【確認事項】

第72回、第73回経営協議会議事要録を原案のとおり確認した。

### 【審議事項】

(1) 学長選考会議委員の選出について

中井学長から、資料1に基づき、学長選考会議規則第2条第1項に基づいて、経営協議会学外委員から選出する標記委員5人として阿部委員、斎藤委員、田原委員、富田委員、林委員を選出する旨の提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

(2) 第2期中期目標期間における教育研究評価について

中田理事から、資料2に基づき、各研究科における「研究業績説明書」及び「現況調査表(研究)」について提案があった。

また、二見共生システム理工学類長から、共生システム理工学研究科の研究活動の中で英文の発表論文数が減少していることについて、学類内での若手教員採用時期と今回の教育研究評価が重なったことや、震災以降、地域貢献型の研究が増えている等の理由が考えられること、明確な理由についてはこれから調査し、英文発表を増やしていけるようにしたいとの説明があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

(3) 東日本大震災(原発事故含む)および激甚災害において被災された方に対する検定料の免除について

真田副学長から、資料3に基づき、平成28年度に実施するすべての入試において、昨年度同様免除を行うことについて提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

**【報告事項】**

(1) 第3期国立大学法人福島大学中期目標・中期計画について

中井学長から、資料4に基づき、第3期中期目標・中期計画が確定したことについて報告があった。

(2) 平成28年度国立大学法人福島大学年度計画について

中井学長から、資料5に基づき、平成28年3月31日付けで文部科学省へ提出したことについて報告があった。

(3) 平成28年度入学試験実施結果について

真田副学長から、資料6に基づき、平成28年度入学試験結果について、確定入学者数の内訳等の報告があった。

(以下、◇はその議題に関する学外委員からの質問・意見、◆は大学側の回答等を表す。)

◇県外からの入学者は少し増えたということだが、県外から入学した学生は地元に戻っているのか、どこに出ているのか進路が知りたい。学生の進路先まで考慮した上で、カリキュラムを作ったりするなど教育の内容が考えられるのではないか。学生が学びたいこととカリキュラムにミスマッチが起きないように、学生の進路を一つの視点にすることも必要だと思う。学びたいことを学べるようにということは、大学院にもあてはまることだろう。

◆4年間学ぶことと、6年間の学ぶことの違いを見えるようにしないと大学院への学生を開拓できないだろう。大学院卒業生の就職実績や研究内容をよりアピールしていけるようにしたい。

◆特に人文系の研究科には、社会人の学び直しの場合としての役割や震災後の留学生の減少など課題があるので対応していきたい。

◇大学院にも課題があるが、本来の狙いである社会人ではない入学者が多くなっている夜間主コースについて、経営的な面から縮小することも含め検討してみてもいいのではないか。また大学院に夜間主コースを設け、よりニーズに答えられるようすることも考えてもいいのではないか。

◇今年ハーバード大学のビジネスを専攻する大学院生を対応する機会があり、その学生達は年齢や国籍も様々であったが、皆大学院に魅力を感じて入学し、大変な意欲を持っていた。日本の大学院のイメージとだいぶ違ってはいたが、大学院が魅力的であるところだというアピールがもっと必要なのではないか。

◆大学院に行くと身につく力や卒業後にしかるべき場所に就職できるといった実績を作ることが必要であるだろう。

◇福島県では地方創生・人口減少対策を行っており、若者の県内定着が目標である。これからは他県との競争になるので、若者が引き続き福祉まで働いてもらうにはどうしたらよいか提言いただくことも我々として必要であると考え。また学部を作る際には、就職先をどう確保するかも大切なポイントなので、震災の建研も踏まえながら、福島で必要なことなど、いろんな形で提言いただけると有り難い。

◇入学した後に学生への満足度調査などはやっているのか。また就職した卒業生にアンケートをとってみてもいいのではないか。また高校生に分かりやすいような発信方法があるといいのではないか。

◆3年に一度、各学類ごとに在学生アンケートを行っているが、卒業生にアンケートをとることも、サンプル数を増やしていくのが難しいだろう。

◆高校生は意外と大学が行っている研究を見ていることが分かった。研究風景を映した3分くらいの映像を作ったりしていきたい。またフェイスブックも行っており、これからも仕掛け作りをしていきたい。

(4) その他

特になし